

「アメリカでつかみとりたいこと」

北海道苫小牧南高等学校普通科1年 細川美和

私はアメリカでつかみとりたいことが2つある。それは欧米の個の文化を学ぶことと現地の高校生の政治参加への意欲について知ることだ。

1つ目について、私は日本とアメリカの文化の違いについて着目した。日本は集団の一員として周囲と同じ考えを持つ傾向がある。たとえば人と違う考えを持っていても他の人に伝えることに抵抗を感じたり、結局言えずに心にしまっておいたり、ということが日本人には多い。実際、私も「人に合わせよう、ルールから自分のはみ出さないように」と自分に制限をかけて今まで過ごしてきた。私はそんな自分に少しもどかしさを感じていた。よく言えば協調性があるが、それは消極的すぎると捉えられる。私が自ら言葉を発しないのは家族や友達なら言わなくても察してくれると思込んでいるからかもしれない。しかし通じ合えなかったとき、人は陰で物言うこともある。コミュニケーションにおいて自分を表現できない、自分の思うことを言えない、または抵抗があるのは大人になってからも大きな影響があると思う。私は自分の信念と考えを持ち、それを発信できるような人になりたい。今年の夏、私はある学校の説明会を受けたが、その説明会で知ったことは、アメリカでは小さな頃から自分の意見を持つことを学び、物事に対して意見があると「Why? Why do you think so?」と疑問を投げかけるという文化があることだ。私はその文化にとっても興味を持った。なぜなら日本には全くない文化だということに加えて自分の意見を抵抗せずに素直に言える文化が素晴らしいと思ったからだ。日本だと自分の意見を言ったりなぜそう思うのかを聞くと面倒くさがられることもある。

日本は全てのことに理由を持つことは重要ではないのだと思う。しかしアメリカの文化、つまり一人一人が意見を持ってそれをシェアする「個」の文化こそが本物のコミュニケーションと言えるのではないだろうか。グローバル化が進む世界で、日本では少子高齢化により外国人労働者の受入拡大が進行している。ハイコンテクストと呼ばれる日本の文化は通用しないものとなるだろう。私はアメリカの文化を体験し、自分に自信を持てるようになりたい。そこでホームステイ先の方や現地の学生からコミュニケーションをとる上で大切だと思うことを聞きたい。私がこのプログラムに参加することで多くの人を変えることはできないかもしれないが、私が変わることで周りに何らかの影響を与えることはできるだろう。私は今後、北海道の生活や将来の問題点などについて改善点を考え、自分の意見を伝えたい。

2つ目について、私は将来、日本と海外を結ぶ架け橋のような仕事に就きたいと思っている。世界で起こっていることに目を向けて自国に関心を持つことは今の私に必要なことである。だから私は中学3年生の頃から朝の登校前の準備時間をスマホでニュースを流すようにしている。それが習慣となっている今、ニュースをただ聞くだけではなく疑問に思うことが増えてきた気がする。私がかこれまで一番関心を持ったのは今年4月の北海道知事選の投票率についてのニュースだ。そのニュースでわかったことは2023年の投票率は51.7%と過去最低だったということだ。人々の道政への関心の低さがとても目立つ。一方アメリカでは投票率は高くはないが若者の政治への意識は確実に日本よりも高い。投票率は増加傾向にある。『政治の話』は私たちの『生活の話』である。多くの人が今の社会に満足しているわけではなくそれぞれ願望があるはずなのに選挙で一票を投じな

いということは変えられるチャンスを逃していることになる。今の日本には、自分が投票しても変わらないという考えをしている人が多い。これでは変えられる未来も変えられずに終わってしまう。自分一票で変わるという前向きな考えが必要だと思う。私は選挙権を得たら、必ず責任ある一票を投じたい。アメリカでこのプログラムに参加して学生がどのような意識で自分の国と向き合っているのか知ることによって私の考えを確かなものにできるだろう。そして私が所属しているボランティア団体の活動で小中学生と私が経験したことをシェアしたい。北海道の政治に関心を持ってもらうように呼びかけ、北海道が盛り上がればベストだと思う。

以上2つのことが私がアメリカでつかみとりたいことだ。このプログラムに参加した際には日本の美しさや良さに気づくと思う。私は北海道の代表として責任を持って学ぶ自信がある。そして私は高校卒業後、海外の大学に進学するという夢があるので、このホームステイを通して自分の夢に一步近づきたい。私は小さい頃から最初から諦めてチャレンジすることなく後悔することばかりだった。だからこそ、このプログラムに挑戦し、自分を変えたいと思う。